

3. 東日本大震災(2011年東北地方太平洋沖地震)で絶対に伝えておきたいことは？

東日本大震災を経験された方は、色々と伝えたいことがあるだろうと思います。その当時の立場や状況によって、その内容は大きく変わると思います。例えば、実際に被災された方は当時の大変な状況を伝えたいでしょうし、救助に携わった人は「こうしておけば助かったのに」との思いがあると思います。ボランティア参加して頂いた人は、ボランティアの大切さを伝えたいのではないのでしょうか？

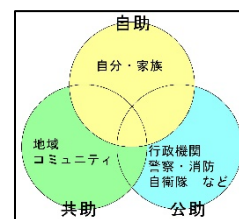
私はというと、地震発生時には八戸で研修会に参加していました。大きな揺れと共に停電となり、研修会は中止となって、慌てて盛岡の自宅に戻りました。途中から高速道路は使えなくなったので、信号がついていない国道4号を南下し、車中のテレビで津波が襲っている様子を見ました。自宅はひどい状態ではありませんでしたが、停電で電気は使えないのはもちろんのこと、ガス・水道が使えない数日を過ごしました。このような状況ですので、実際の被災や救助に係わるような話はできないのですが、地域の方々と共に防災や減災を考える活動をしている者として、東日本大震災にかかわらず、防災・減災に対して「日頃からの備えが大事」ということを中心に3点ほど記述したいと思います。あたりさわりのないことかもしれませんが、改めて伝えたいこととして記述させていただきます。

(1) 自助・共助・公助

よく耳する言葉かと思いますが、私なりにまとめると、以下のようになります。

- * 自助：災害が発生した時に、まずは自分と家族の身の安全を守ること
- * 共助：地域やコミュニティなどの周囲の人たちが協力し助け合うこと
- * 公助：市町村・県、警察・消防、自衛隊といった公的機関による救助・援助

私はこの中で、最も「自助」が大切だと思っています（右図はそれを表現したつもりです）。自分が助からなくては、家族も助けることはできませんし、共助や公助にもつながらないからです。災害に遭遇したら、まず自分の身を守りましょう。



(2) 知ることが大事

私たち NPO では、「わがまち再発見」と称して、自分たちの住んでいる地域を歩いて、危険箇所や役立つものなどを地図に書き込む「マイマップづくり」のお手伝いをしています。「マイマップ」は自身で作るハザードマップで、個人のを集めれば、地域のハザードマップにもなります。発災時に、どの場所がより安全に避難所まで行くことができるか、といったような地域のことを事前に知っておくことが大事だと思っています。

(3) 備えあっても憂いあり

「備えあれば憂いなし」を防災に係わることにもじった言葉です。ある方の講演会で聞いた言葉で、「備えあれば憂いなしと言いますが、防災に関しては、備えあっても憂いありですよ」とのことでした。つまり、「備えあれば憂いなし」は「前もって準備していれば心配する必要はない」ということですが、防災に関しては「十分な準備をしても、安全とは言いきれない」ということだと思っています。

(H.K.)